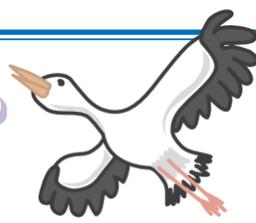


共存をめざして



星野順一郎市長



今回は、市内にある鳥の研究を専門にしている公益財団法人山階鳥類研究所の林良博所長をお招きし、人と鳥との関わりや今後の抱負について伺いました。

星野順一郎市長(以下、市長) 明けましておめでとうございませう。昨年、ジャパンバードフェスティバル(以下、JBF)が15周年ということで、実行委員長として大変お疲れ様でした。林良博山階鳥類研究所所長(以下、所長) はい。天候にも恵まれ、2日間で約4万人と多くの方に会場いただきました。特に、海外から7つの国と地域が参加し、国際色豊かでした。市長 恒例の台湾をはじめ、初めてリトアニアやモンゴルから

も参加してくれました。モンゴルの方から、今後鳥の博物館のような施設を作る予定と聞きまされた。所長 そうですか。我孫子市からノウハウを提供できますね。市長 昨年は、鳥の博物館も開館25周年でした。市長 昨年は市制も45周年で、4年後は50周年と半世紀の節目となります。鳥の博物館も30周年に向けて、常設展示も何か考

えなくてはいいですね。所長 総合的な鳥の博物館は、日本ではここだけですからね。市長 鳥の博物館でいろいろな企画展ができるのも、やはり隣に山階さんがあるおかげです。子どもたちも含めて市民向けのわかりやすい展示に活用していただければと思います。所長 それはすごく重要なことです。欧米では博物館に研究施設を持つています。日本では国立科学博物館ですね。そういう意味で、鳥の博物館に隣接して

所長 渡りをする鳥は日本だけでなく、南の方の地域の環境劣化が激しいとかなりのダメージを受けます。北の方も同じ事が言えます。人間が環境をいかに保全できるかによって鳥の数も違ってきます。やはり温暖化の影響が出てくるんじゃないかという気がします。人間の力ではコントロールできないところもあります。我孫子は文化的でもっといいまちだと思います。やはり、手賀沼という自然があることは大きいですね。水質など一時期大変でしたが、今はだいぶよみがえってきました。せめて我孫子の環境はこのまま良い形で守っていただきたいなと思います。市長 手賀沼の水質も下水道や

自然環境を保全することの大切さ

所長 試飲も午後3時30分からできます。ソムリエの田崎真也さんがワイン展アンバサダーになつてくれました。彼の選んだ100種類のワインが帰り際にお求めいただけます。今回は子どもを対象にしています。今後は来館者は少ないかもしれませんが、

が、ミュージアムショップの売り上げは過去最高になるんじゃないかと関係者は期待しています。

北千葉導水事業などの効果により、以前に比べるとかなり改善しています。ここ数年は高値安定というか、COD値も9mg/lを超えて推移していましたが、昨年からのプランクトンの発生を抑制する等の理由から、試験的に導水の時期や水量を調整したところ、COD値が8mg/lを切りました。所長 なるほど。人間の知恵で環境を良くするというひとつの典型ですね。環境がいいと手賀沼にやってくる野鳥たちも増えますが、ムクドリのように大量に集まると市長としては頭の痛いところですか。市長 そうですね。昨年は鷹匠から訓練を受けたタカによるムクドリの追い払いをお願いした

ら、非常に効果がありました。天王台駅で昨年は8千羽もいたのが、昨年は千羽を切りましたから。やはり、人と共存できる程度に散らばってくれるといいですね。所長 鹿兒島県の出水市にはナベヅルが1万羽渡ってくるんです。ここまで集中すると、糞尿の臭いぐらいいたらいいん



▲ジャパンバードフェスティバル (JBF)

公益財団法人 山階鳥類研究所

故山階芳麿博士が1932年に私費を投じて東京都渋谷区山階家私邸内に建てた鳥類標本館が前身。1942年に山階鳥類研究所となり、1984年11月、我孫子市に移転。鳥類学の拠点として基礎的な調査・研究や、鳥類学の普及啓発活動を行っている。

《賛助会員募集中》

山階鳥類研究所の活動や研究は、賛助会費や寄付により支えられています。皆様のご支援をお願いします。税法上の優遇措置も受けられます。詳しくはお問い合わせください。

〒 山階鳥類研究所事務局 ☎7182-1101 (平日午前10時～正午、午後1時～5時)

独立行政法人 国立科学博物館

“人類と自然の共存をめざして”をテーマに、人類や動物たちの進化、自然環境の変化、科学技術の歩みについてなど総合的な展示を行っている。

現在特別展では「ワイン展—ぶどうから生まれた奇跡—」を開催中(2月21日(日)まで)。3月からは恐竜展を開催予定。

所在地 東京都台東区上野公園7の20

☎ ハローダイヤル ☎03-5777-8600